

ニントゥアン省眼科センター超音波白内障手術装置整備計画・引渡し式典

2013年10月11日

2013年10月11日(金)、日本政府による対ベトナム草の根・人間の安全保障無償資金協力「ニントゥアン省眼科センター超音波白内障手術装置整備計画」(2012年度実施)の機材引渡し式典が、日田春光・在ホーチミン日本国総領事、ニントゥアン省人民委員会ヴォー・ダイ副委員長、ニントゥアン省保健局ファン・ティ・ライ副局长、ニントゥアン省眼科センターファム・ヴァン・ハイ院長、アジア失明予防の会(APBA)服部匡志医師出席の下、本件申請団体であるニントゥアン省眼科センターにおいて執り行われました。

ニントゥアン省眼科センターは、白内障手術が行える省内唯一の眼科治療機関として、眼科疾病の予防・治療を担う住民にとって非常に重要な医療機関の一つです。本件は106,141米ドルの資金協力を通じ、最も優先度の高い7種類の医療機材を整備することで、同センターにおける眼科医療サービスの質を向上し、主に白内障患者への適切な手術を行う体制を整えることを目的として実施されました。

式典において、日田総領事は、「本件を通じ、地域の医療改善に貢献できたことは、非常に喜ばしいことであると思います。日越外交関係樹立40周年の今年に、本件を通じて整備された医療機材が日本とニントゥアン省、引いては日本とベトナムの友好のシンボルとなることを祈念致しまして私の挨拶いたします。」と述べました。これに対し、ハイ院長は、「ニントゥアン省眼科専門センターを代表し、白内障手術医療機材整備計画を承認して下さった在ホーチミン市日本国総領事館に心よりお礼申し上げます。また、被供与団体として機会を与えて下さったニントゥアン省人民委員会およびニントゥアン省保健局に感謝申し上げます。整備して頂いた機材が効果を発揮し、長期にわたり使用出来るよう、維持管理を行うことを誓います。」と感謝の意を表明しました。



スピーチを行う日田総領事



日本が支援したことを示すプレート



整備された眼科手術用顕微鏡



整備された細隙灯顕微鏡